

科目名	施術概論 1							年度	2026
英語科目名	Surgical operation outline 1							学期	前期
学科・学年	柔道整復科 2年次	必/選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	富田泰彦	教員の実務経験		有	実務経験の職種		医師（病院にて勤務）		
【科目の目的】 この科目で主に診察の基本と内科疾患を中心とした疾患の概念を学ぶことで、柔道整復師が臨床現場で注意を払わなければならない症状・所見の理解を深めることを目的とする。									
【科目の概要】 柔道整復師が現場で知っておくべき内因性疾患とその症状および治療について学ぶ。									
【到達目標】 医療機関では、患者がもっている精神的・肉体的異常を、まず正確に把握しなければならず、こうした医療行為が診察であり、それにより患者が健康に復帰するために行う処置、すなわち治療を施すための根拠が得られることになる。診察から診断について学ぶことで柔道整復師本来の業務範囲に活用できることが目標である。									
【授業の注意点】 国民の健康に寄与する医療人の育成であることを重視する。全授業の出席を原則とする。正当な理由なき欠席・遅刻・早退は認めない。また、授業中の態度（私語・飲食・居眠り）には厳しく対応する。常に医療現場にて患者に適切な応対ができるマナーを身につけるような心掛けを求める。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	診察の意義・医療面接の意義について完全に理解している。	診察の意義・医療面接の意義について大体理解している。	診察の意義・医療面接の意義について部分的に理解している。	診察の意義・医療面接の意義についての理解がやや不足している。	診察の意義・医療面接の意義について理解していない。				
到達目標 B	視診・打診・聴診・触診の意義と方法について完全に理解している。	視診・打診・聴診・触診の意義と方法について大体理解している。	視診・打診・聴診・触診の意義と方法について部分的に理解している。	視診・打診・聴診・触診の意義と方法についての理解がやや不足している。	視診・打診・聴診・触診の意義と方法について理解していない。				
到達目標 C	生命徴候について完全に理解している。	生命徴候について大体理解している。	生命徴候について部分的に理解している。	生命徴候についての理解がやや不足している。	生命徴候について理解していない。				
到達目標 D	感覚検査について完全に理解している。	感覚検査について大体理解している。	感覚検査について部分的に理解している。	感覚検査についての理解がやや不足している。	感覚検査について理解していない。				
到達目標 E	反射検査について完全に理解している。	反射検査について大体理解している。	反射検査について部分的に理解している。	反射検査についての理解がやや不足している。	反射検査について理解していない。				
【教科書】 教科書（一般臨床医学第2版-社団法人 全国柔道整復学校協会 監修-）に準拠する。									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 試験と課題を総合的に評価する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		施術概論 1			年度	2026
英語表記		Surgical operation outline 1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	診察概論、診察各論①	診察の意義・医療面接の意義と方法を理解する。	1 診察とは	患者を客観的に観察し、異常所見を見出して診断する医療行為について理解する。	3	
			2 医療面接とは	患者から自覚症状や病歴などを確認することを理解する。		
			3 診察の心構え	常に真摯な態度を忘れないことを理解する。		
2	診察各論②	視診の意義・方法を理解する。	1 意義	患者の外形や外観をして所見をとる診察法について理解する。	3	
			2 観察すべき事項①	体格・体型、体位・姿勢、栄養状態などについて理解する。		
			3 観察すべき事項②	精神状態、異常運動、歩行、皮膚の状態などを理解する。		
3	診察各論③	全身から局所の視診を理解する。	1 頭部・顔面・頸部	顔貌と顔色、口腔、舌、咽頭、腫瘍などを理解する。	3	
			2 胸部・腹部・背部	胸郭の変形、腹壁の皮膚、脊柱の変形などを理解する。		
			3 四肢	猿手、鷲手、下垂手、尖足、偏平足などを理解する。		
4	診察各論④	打診・聴診の意義と方法を理解する。	1 意義	特に胸部と腹部の診察に有用であることを理解する。	3	
			2 打診音の種類	静音、濁音、鼓音について理解する。		
			3 聴診の意義	身体内部で発生する音を聴いて診断する方法を理解する。		
5	診察各論⑤	触診の意義と代表的な圧痛点の部位を理解する。	1 意義	患者の身体各部に手指を触れて診察する方法について理解する。	3	
			2 胃潰瘍	ボアス点について理解する。		
			3 虫垂炎	マクバーニー点、ランツ点について理解する。		
6	診察各論⑥	生命聴講で体温・血圧・脈拍・呼吸について理解する。	1 生命徴候とは	人間の生命活動を観察するものを理解する。	3	
			2 体温と血圧	体腔内の温度、血液が血管壁に与える血管内圧について理解する。		
			3 脈拍と呼吸	心臓の拍動に伴う動脈の拍動、健康者で安静時16～20回/1分間の呼吸について理解する。		
7	診察各論⑦	感覚検査の意義と方法を理解する。	1 意義	神経疾患を診断するうえで深い意義であることを理解する。	3	
			2 表在感覚・深部感覚の検査	触覚、痛覚、温度覚、位置覚、振動覚、深部痛覚について理解する。		
			3 複合感覚の検査	2点識別覚、皮膚書字テスト、立体認知テスト、局所覚について理解する。		
8	振り返り	前期1回～7回の講義の振り返り。	1 診察とは	患者を客観的に観察し、異常所見を見出して診断する医療行為であることを理解する。	3	
			2 診察方法	視診、打診、聴診、触診について理解する。		
			3 生命徴候とは	人間の生命活動を観察するものであることを理解する。		
9	診察各論⑧	反射の種類と反射検査の意義と注意事項を理解する。	1 表材反射の種類	粘膜反射と皮膚反射について理解する。	3	
			2 腱反射の種類	上腕二頭筋反射、膝蓋腱反射などについて理解する。		
			3 病的反射	バビンスキー反射、ホフマン反射について理解する。		
10	診察各論⑨	代表的臨床症状を理解する①	1 発熱とは	健康時の体温の範囲を超えて上昇している場合であることを理解する。	3	
			2 出血傾向とは	止血しにくい病態であることを理解する。		
			3 リンパ節腫脹とは	リンパ節が種々の病態で異常に腫大した状態であることを理解する。		
11	診察各論⑩	代表的臨床症状を理解する②	1 意識障害とは	睡眠していないのに意識が清明でない状態であることを理解する。	3	
			2 浮腫とは	細胞外液のうち組織液の増加した状態であることを理解する。		
			3 やせとは	体内の脂肪組織ならびに骨・筋などの組織が減少し体重が著明に低下することを理解する。		
12	検査法	血圧・脈拍・呼吸・体温や心電図・脳波・筋電図・検体・運動機能の各検査を理解する。	1 生命徴候の測定	体温、呼吸、脈拍、血圧を測定することを理解する。	3	
			2 心電図検査	心臓の拍動に伴って発生する電位の変化を体表から記録することを理解する。		
			3 検体検査	尿・便・血液などを採取してその成分を分析する検査であることを理解する。		
13	主要な疾患	呼吸器疾患総論を理解する。	1 呼吸器とは	大気を吸入することにより直接外界とつながる臓器であることを理解する。	3	
			2 概説	幅広い呼吸器疾患が存在することを理解する。		
			3 主要徴候	咳嗽、喀痰、呼吸困難、ばち指、胸水について理解する。		
14	振り返り	前期9回～13回の講義の振り返り。	1 表材反射の種類	粘膜反射と皮膚反射について理解する。	3	
			2 意識障害とは	睡眠していないのに意識が清明ではない状態であることを理解する。		
			3 生命徴候の測定	体温、呼吸、脈拍、血圧を測定することを理解する。		
15	施術概論1のまとめ	前期施術概論1全体の振り返り。	1 医療面接とは	患者から自覚症状や病歴などを確認することを理解する。	3	
			2 生命徴候とは	人間の生命活動を観察することを理解する。		
			3 呼吸器疾患の主要徴候	咳嗽、喀痰、呼吸困難、ばち指、胸水について理解する。		

評価方法：1. 小テスト、52. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等